

## 2020年5月24日 説教「すべてを働かせて益と」

ローマ人への手紙 8章 26～28節

今朝はやはり単発的な主題説教で、ローマ人への手紙から学びます。

### 1. 御霊の導き (26節)

①弱い私たちを助け (26) 「御霊も同じようにして、弱い私たちを助けてくださいます。」罪人は、キリストの十字架での身代わりの死によって、赦される道が開かれました。そして、私たちはただ恵みにより、キリストを信じる信仰によって救われるのです。そのようにして、救われた者たちはキリストに望みを抱いて生きるのです。しかし、クリスチャンはまだ見ていないものを望んでいるわけですから、その過程においては、熱心に待ち望む信仰によって生きていくのです (25節)。とはいえ、信仰者も弱く、ついつい目に見える望みへと心が向いてしまいます。しかし、そんな弱い私たちのために、御霊なる神が働いてくださるのです。そして、助けてくださるのです。

②祈れない私たち (26) 「私たちは、どのように祈ったらよいかわからないのですが、」クリスチャンにとって、祈りは呼吸のようなものです。呼吸しなければ、息ができなくなってしまうように、祈りがなければ内なるいのちは弱ってしまいます。それほどに、祈りは大切なのですが、クリスチャンもいざとなるとどのように祈ったら良いのかがわからなくなってしまいます。真実に神に向き合おうとすればするほどに、自分の祈りが不真実に思え、祈りの言葉が見つけれなくなってしまうのです。本当に祈るべきことが何であるのかがわからなくなってしまうのです。それは信仰がないからではなく、自らの罪深さを知らされている者にとっては、ある面では必然のことなのです。信仰者として、主を求めながら行き詰まってしまうのです。

③御霊がとりなし (26) 「御霊ご自身が、言いようもない深いうめきによって、私たちのためにとりなしてください。」しかし、そんなところに御霊ご自身が、神との間に入ってとりなしてくださいというのです。それも言葉に言い表せないほどの深い感情と心をこめて、私たちのために祈ってくださるというのです。実際的には、祈る者に御霊の神がともに働いて、導きと助けを与えてくださって、祈りの言葉をもたらしてくださるのです。

### 2. 聖徒のために (27節)

①御霊の思いを知り (27) 「人間の心を探り窮める方は、御霊の思いが何かをよく知っておられます。」「人間の心を探り窮める方」とは父なる神です。「主よ。あなたは私を探り、私を知っています。あなたこそは私のすわるのも立つのも知っておられ、私の思いを遠くから読み取られます。」(詩篇 139:1-2) とあるように、父なる神は私たちのことを何もかも知っておられます。その方は、御霊なる神のとりなしの意



①



②ムリーリョ 放蕩息子の回心

図をよく知っておられるのです。御霊に教えられて祈る私たちの祈りの、本当の意味と中身を、知ってくださっているのです。御霊が意図し、私たちが導かれて祈る祈りを、私たち以上に明確に知ってくださっているのです。

②神のみこころにしたがい (27)「**なぜなら、御霊は、神のみこころにしたがって**」というのも、御霊なる神がクリスチャンの内に働いてくださる時に、神のみこころにそってことをなしてくださるのです。つまり、御霊なる神は、神のみこころをよく知っているのです。当然といえば当然です。御霊は、三位一体なる神の一位格 (パースン) なのです。ですから、御霊なる神は、父なる神の御心にそって、私たちと神の間に入って、とりなしをなしてくださるのです。

③聖徒のために (27)「**聖徒のためにとりなしをしてくださるからです。**」ここに聖徒とありますが、キリストを信じ、キリストを見上げながら歩む者たちです。聖徒は主に従って歩みます。聖徒は主を信じて祈りながら働こうとします。「義人の祈りは働くと、大きな力があります」(ヤコブの手紙 5:16) とあります。先週学んだエリヤも信仰をもって祈り、用いられたのです。私たちも、信じて祈る時に、御霊なる神がとりなししてくださり、応えられていくのです。

### 3. すべてを働かせて (28 節)

①神を愛する人々 (28)「**神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、**」27 節で「聖徒」と記されましたが、ここでは「神を愛する人々」と言い換えられています。その人々は、神に召されて主のしもべに導かれた者たちです。そして、主に導かれたという出来事は神の永遠のご計画のなかにあったことです。キリストにある者の救いは、世界の基の置かれる前からの、恵みによる選びによって定められていたのです (エペソ 1 章)。

②神はすべてを働かせ (28)「**神がすべてのことを働かせて**」そんな者たち、神に召された人々のために、主は世界のあらゆることを用いてことをなしてくださるのです。世界の創造の御業に始まり、歴史、知恵、知識、出来事など、すべてのことに働かせてことをなさんとしてくださるのです。

③益としてくださる (28)「**益としてくださることを、私たちは知っています。**」神はその愛する聖徒のために、すべてのことを働かせて、良い結果を与えようとしてくださる方なのです。万事を益としてくださろうとしてくださる主なのです。万事 (すべてのこと) を働かせてという時の、万事というなかには、人間的には受け入れにくいことも含まれているのです。そんなすべてのことを、総合的に用いて下さり、すばらしい結果をもたらしてくださるのです。そのことを、クリスチャンは「知っている」と言っていました。

### 《結論》

ローマ人への手紙は、人間の救いについての一大論文といっても良いのです。そして、今朝の聖書箇所は 8 章ですが、この章は一章から語られてきた救済論のクライマックスなのです。そのうちの三節をとりあげて、今朝は学んでいるのです。

それでは、どうして 26 節から 28 節を学んでいるのですか。その理由の第一は、来週は聖霊降臨日ですから、それに関連して学びたかったからです。第二に、今この地上に生きている者たちは、大きな試練のなかに置かれています。そのことの意味の一端を学びたいからです。

今朝の聖書箇所に、御霊なる神は、私たちに何をなしてくださるとありましたか。御霊なる神は、私たちの祈りのとりなしをなしてくださるとありありました。これは極めて大切な真理です。クリスチャンはどのようにして生きていく者達ですか。クリスチャンは、神に導かれながら生きていく者達ではありませんか。クリスチャンは祈りつつ歩いていく者でしょう。しかし、求めていけばいくほどに、私たちは何が私たちににとって大事で、何を求めていけば良いのかがわからなくなってしまうことがあります。たとえば、見えない本当の希望を教えられているといっても、それをどのように求めていけば良いのかと考えると、適切な祈りの言葉をみつけられなくなってしまうのです。しかし、御霊なる神が助けてくださるのです。父なる神との間に入って、とりなししてく下さるのです。私たちはどうしたら良いのでしょうか。主の前に静まることではないでしょうか。主の前にひざまずいて、主に自らを差し出していくことです。そこに御霊なる神が働きかけてくださるのです。そして、祈りの言葉を私たちに示してくださるのです。そのことをまずは学びましょう。

第二に、試練や苦難や問題に遭遇している者たちへの導きをいただきましょう。28 節にその答えの一つがあります。すなわち、神を愛する者達、すなわちクリスチャン、または主を求め召されている者たちのために、主は特別なことをして下さるといいます。つまり、「すべてのことを働かせて益としてくださる」とあります。たとえ、今起きている事や、遭遇していることが、好ましいと思われなくても、そのことのうちにも働きかけてくださって、それらを用いて事を起こそうとしてくださっているというのです。裏の頁の②の絵は放蕩息子の回心の姿です。彼の放蕩も用いられて、父の愛を知るに至ったのです。

今日私たちはコロナウィルス感染問題により、健康の問題から始まって、経済、生きるということ、家族問題、社会問題にまで広がって大きな課題に直面しています。倒れかけている人々もあります。あなたもその一人かもしれません。しかし、主はこのことにも働きかけてくださり、事をなそうとしてくださっているのです。今こそ、主を見上げていきましょう。御霊なる神に魂をゆだね、祈りつつ、すべてを用いて事をなしてくださる神を信じて歩いていこうではありませんか。